

グローバル事業展開

OVAKO



OVAKO Group AB
President & Chief
Executive Officer
Marcus Hedblom

OVAKOは、人のため、地球のため、経営のため、確固としてサステナビリティに取り組んでいます。今日の不安定な市場環境にあっても、安全と業務の卓越性を経営の軸に据え、長期的な視点で尽力しています。

安全への取り組み

安全は、私たちの最優先事項であり、経営成功の基盤です。OVAKOではすべての従業員が主体的に行動できる強固な企業文化を通じて、業界をリードする成果を継続的に創出しています。労働災害率数は0.7と、2015年から94%の改善を達成しており、この成果を通じて、OVAKOは鉄鋼業界全体の職場安全に新たなベンチマークを打ち立てています。

市場環境と業績

欧州製造業の低迷など、足元の環境が非常に厳しい中であっても、OVAKOは堅調なマージンと市場でのポジションを維持し、企業としての高いレジリエンスを示しています。欧州鉄鋼業界が苦境に直面する中、OVAKOは戦略的に業績を強化してきました。今年の戦術的計画「Need for Speed (スピード重視)」に基づき、困難な状況下でも、新たなビジネスの創出、効率性の向上、成長の加速に向けた取り組みを推進していきます。

サステナビリティへの取り組み

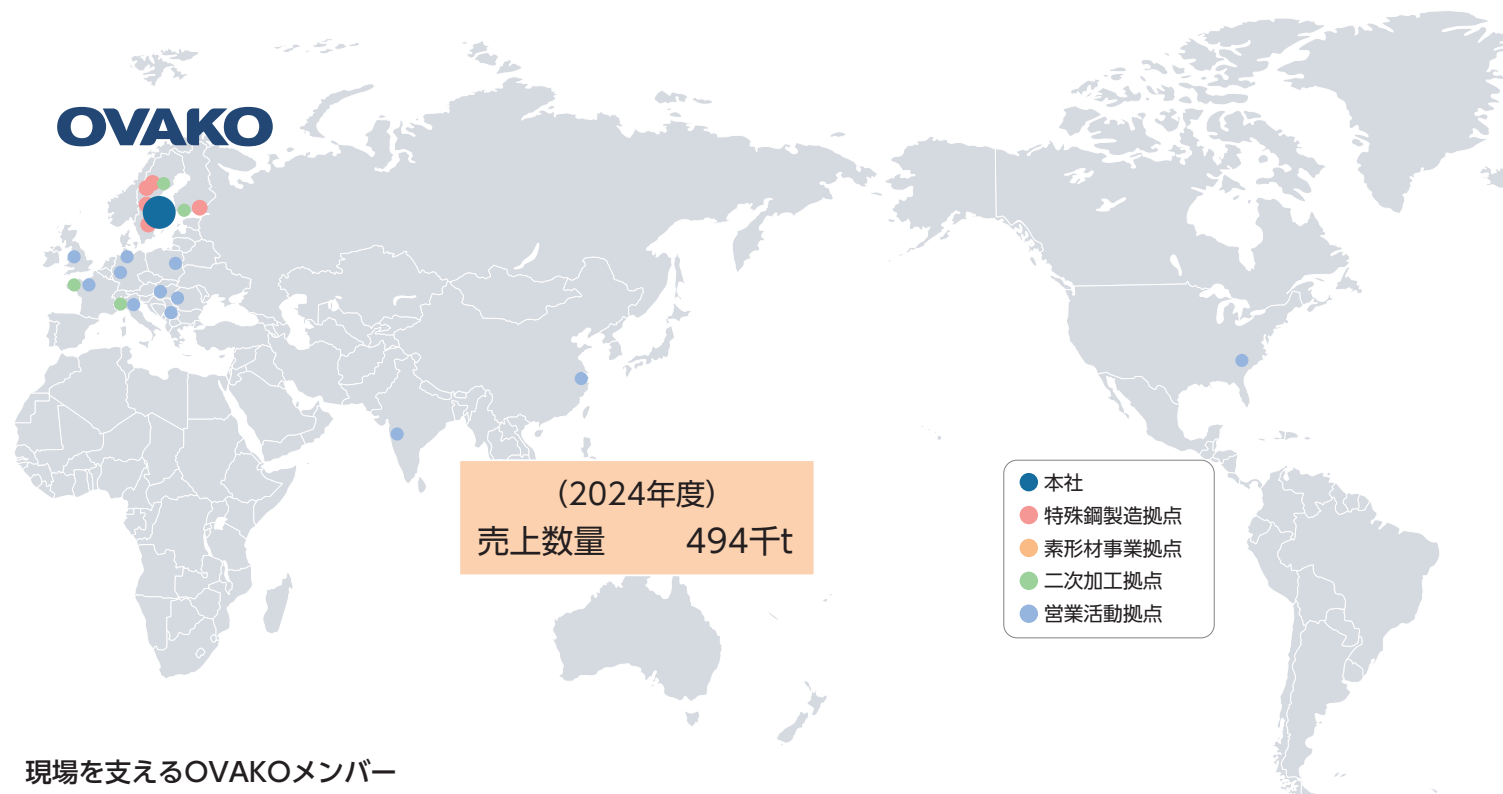
OVAKOの脱炭素化の取り組みは着実に前進しています。2015年以降、CO₂排出量 (Scope 1および2、1トンあたり) 約60%削減を達成しました。また、Boxholmに導入した電気炉等の設備投資により、CO₂排出量削減およびエネルギー削減を実現する即時的な効果と、水素やバイオガスに対応できる長期的な対応力を獲得しました。2025年提出予定の科学的根拠に基づく目標をもとに、OVAKOは2045年までにバリューチェーン全体でのネットゼロ排出の達成に向けて一歩ずつ歩みを進めています。

展望

技術それだけで解決に至ることはありません。環境対策による社会の変化が、すべての人にとって公平で持続可能なものとなるためには、EUの炭素国境調整メカニズム (CBAM) のような政策枠組みや、化石燃料を使わないエネルギーへのアクセス整備が不可欠です。明確な戦略的優先事項、意欲的なチーム、そして強固なパートナーシップを備えたOVAKOは、安全かつ責任を持って、そして脱炭素社会のための鉄鋼を創出するという目的意識を持って、鉄鋼業界の変革を主導する立場にあります。

世界中の特殊鋼ニーズに対応するグローバルネットワーク

山陽特殊製鋼グループは、日本、欧州、インドに特殊鋼の一貫製造拠点を構え、世界3極体制で世界各地の特殊鋼ニーズに対応しています。また、自動車の成長市場に素形材事業によるサプライチェーンを構築し、グローバルに事業を展開するお客様の現地調達ニーズに対応しています。これらのグローバルネットワークを駆使して中長期的に拡大するグローバルな特殊鋼需要を着実に捕捉し、世界中のお客様に高品質の特殊鋼製品を安定的に供給することで、グループの利益成長と企業価値の向上を図ってまいります。



現場を支えるOVAKOメンバー



OVAKOの主要な工場



Hofors (スウェーデン)



Smedjebacken (スウェーデン)



Boxholm (スウェーデン)



Imatra (フィンランド)

グローバル事業展開

Sanyo Special Steel Manufacturing India Pvt. Ltd.



Sanyo Special Steel
Manufacturing India
Pvt. Ltd.
Managing Director
Dilipkumar Pachpande

Sanyo Special Steel Manufacturing India Pvt. Ltd. (以下、[SSMI])は、インドの製造業界、特に高品質の特殊鋼生産におけるポジションを確立しており、山陽特殊製鋼および日本製鉄グループ各社と共同し競争力を高めています。さまざまな経営上の課題に直面する中でも、私たちは目標に対する揺るがない意志と姿勢を持ち続け、レジリエンスを維持してきました。

私たちのサステナビリティに対する全体的な取り組みは、環境管理、社会的責任、ガバナンス体制の3つの柱で成り立っています。

- 環境管理：環境管理を原動力に、製品カーボンフットプリントが低いグリーン鋼材を製造する。
- 社会的責任：従業員、地域社会、ステークホルダーへの真摯な姿勢を固持し、私たちの成長が、エコシステムに関わる全ての人々にとって利益となるよう努める。
- ガバナンス体制：持続可能な事業運営を支えるガバナンス体制により、事業のレジリエンスと収益性を確保する。

SSMIは包括的な気候変動対策戦略として、2050年までにカーボンニュートラルを完全に達成することを目標に掲げ、段階的なマイルストーンを設定しています。

再生可能エネルギーの導入、CO₂排出量の少ないエネルギー源の活用、エネルギー代替、社会的責任の醸成、Zero Harmで安全な職場づくりと従業員の健康維持、ステークホルダーとの関係強化等、多岐にわたる活動を通じ、持続可能な発展とより環境に優しい未来に向けて取り組みを進めています。

SSMIは、取り組みの達成に向けて、短期(2026～2027年)、中期(2028～2035年)、長期(2036～2050年)の目標を設定しました。これらの基本方針には、需要創出による強固で安定した収益基盤の構築や、品質競争力の維持、環境問題への対応を通じたインド経済発展、そして多様性を尊重した安全な職場環境の整備によって従業員や地域社会との信頼関係構築を掲げています。

謝辞

SSMIの持続可能な未来への取り組みへご支援とご協力をいただいていることに対して、経営陣をはじめ、従業員、パートナー会社、そして全てのステークホルダーの方へ、心からの感謝をお伝えたく存じます。

パートナー会社や地域社会と密に連携することが、気候変動のみならず私たちのビジネスにおけるレジリエンスと収益体制の強化につながると考えています。

